



ペンタゴンプロジェクト 道外聾学校とオンライン交流



筑波技術大学の先生が手話で話す沼倉さんの音声通訳をしています。（旭川は、下の段の左から2番目の画像。）

今年もペンタゴンプロジェクトとして、全国の聾学校とオンラインで交流をし、いま（9月8日）、今年初のオンライン交流を行いました。この活動は、昨日の仲間とつながり、見識を広げたり、日本各地の文化に触れたりする機会もなっており、参加校は、小学部の4年生以上が対象で、熊本県立熊本聾学校（13名）、島根県立松江ろう学校（7名）、愛知県立岡崎聾学校（27名）、北海道旭川聾学校（8名）の皆さんが、サポートを受けて実施しています。5つの関係者が集まるイベントであることから、五角形の星の形をイメージして「ペンタゴンプロジェクト」と呼ばれています。

今年度の第一回目となる昨日の交流では、11月に東京で行われるデフリンピックでお招きの選手であり、筑波技術大で学んでいる沼倉さん御夫妻を旭川の子供たちにお話を聞いたり、質問に答えていただいたりする内容でした。沼倉さん「最初にデフリンピックが行われたのはどこですか？」

○「フランスです。」

△「パラリンピックに聞かない人が入っていないのはなぜですか？」

○「手話など、コミュニケーションの問題が大きく、独自にやることになった。」

など、みんな「なるほど・・・。」とうなずいていました。

今後は、次のような内容が予定されており楽しみです。

子どもたちが早く打ち解け、驚きと学びのある交流を続けていくことができるように期待しています。

【今後の予定】

- 12月15日（月）
- 1月26日（月）

授業交流「SDGsについて考える」

北海道をペシカル（北海道を知ることができるクイズを出題するそうです。また、校庭の築山でスキーをして見せたり、タオルを回して棒になる体験を見せたりする予定だとのこと。）

筑波技術大学の様子（キャリア教育：「学生の学校生活は？」）

2月